

『スペース～遊U～』及び 『子育てほっ！とサロン』開設事業について

生涯学習支援課

【要旨】 生涯学習支援課では和歌山県教育センター学びの丘を拠点に、地域社会が抱える喫緊の課題を解決するため、「スペース～遊U～」開設事業と「子育てほっ！とサロン」開設事業を重要な柱として位置づけ、その推進に取り組んできた。この2事業について、詳細を紹介する。

【キーワード】 地域の教育力再生、地域ぐるみの教育、家庭の教育力の向上、居場所、大人同士の交流

1 事業の位置づけ

「スペース～遊U～」開設事業とは国委託事業「地域子ども教室推進事業」を活用して、当センター学びの丘等に、子どもと大人がともに集い、学びあう場として「スペース～遊U～」を開設し、地域の教育力の再生を図るモデル事業である。

また、「子育てほっ！とサロン」（以下、サロンという）開設事業とは国委託事業「家庭教育支援総合推進事業」を活用して、当センター学びの丘に、親子が気軽に参加できる居場所を開設し、家庭教育子育て支援の推進を図るモデル事業である。

2 事業主体

上記2事業はいずれも「スペース～遊U～実行委員会」が主体となって実施している。本委員会は、県立紀南図書館長をはじめ、図書館ボランティア代表、総合型地域スポーツクラブ代表、子育て支援関係NPO代表、新庄地区校区協議会代表、田辺市立新庄第二小学校PTA会長及び地域連携担当教員、生涯学習支援課長の計8名を実行委員に委嘱し、2事業の内容・運営について年3回の会議を中心に、指導・助言・評価を行っている。

事務局は当センター学びの丘生涯学習支援課にあり、コーディネーター（県教育委員会主催の家庭教育インストラクター養成講座修了者）とともに2事業に係る事務を担当している。

◇実行委員会

和歌山県教育センター学びの丘 生涯学習支援課

〒646-0011 田辺市新庄町 3353-9 TEL：0739-26-3514 FAX：0739-26-8120

◇和歌山県教育センター学びの丘

当センター学びの丘は、田辺市（人口 約 86,000 人）新庄町の丘陵地にある和歌山県立情報交流センター Big・U 内に昨年4月に開所した。和歌山県立情報交流センター Big・U 内には和歌山県立紀南図書館、周辺には新庄総合公園（田辺市）や田辺市立美術館等もあり、隣接する上富田町（人口 約 15,000 人）や白浜町（人口 約 20,000 人）等からの家族連れを中心とした来館者が多い。

3 「スペース～遊U～」開設事業について

【ねらい】

本事業には、当センター学びの丘及びその周辺を拠点に、子どもに様々な体験活動の機会を提供するとともに、その活動に参加する大人同士の交流や学習を促進することで生まれる地域の新たな結びつきを地域の教育力の再生につなげるねらいがある。

(1) 事業内容

①事業1 「ゆうゆう おはなしかい」

- ・開催回数 年間 50 回
- ・日 時 4 月より毎週日曜日
(午前 11 時から 1 時間)
- ・指導体制 指導者、ボランティア
- ・対 象 幼児や小中学生とその保護者
- ・場 所 和歌山県教育センター学びの丘
- ・内 容 絵本などの読み聞かせ会
- ・参加人数 子ども 886 人
保護者 837 人 (1 月末集計)



「ゆうゆうおはなしかい」の運営は、県立紀南図書館ボランティアの方々が中心に行っている。

毎回、たくさんの絵本や紙芝居が用意され、子どもたちはもちろん保護者までが本の世界に引き込まれ、本の世界の魅力を十分感じとることができた。

毎回 20 ～ 30 人の参加者の多くはリピーターであり、毎週決まった時間に決まった場所で活動を行うことの意義を実感することができた。

子どもが親の膝の上に座って親子で同じ時間を共有し、心通わせる姿は、子育ての原点であり、今後もこうした活動を継続する必要性があると考えます。



②事業2 「スペース～遊U～」

- ・開催回数 年間 20 回
- ・日 時 7 月より隔週土曜日
(午前 9 時半より 2 時間)
- ・指導体制 指導者、ボランティア、コーディネーター
- ・対 象 小学生とその保護者
- ・場 所 和歌山県教育センター学びの丘
- ・内 容
第 1 回「ブーメランを作るとばそう」
第 2 回「望遠鏡・双眼鏡であそぼう」
第 3 回「空気砲をつくろう」



- 第4回「キューちゃん漬けを作ろう」
- 第5回「ビーズ手芸」
- 第6回「クッキーを作ろう」
- 第7回「(再)ブーメランを作るとばそう」
- 第8回「マイナス 196 度の世界とふしぎな音の世界」
- 第9回「グランドゴルフ」
- 第10回「フラワーアート」
- 第11回「クリスマス小物作り」(低学年)
- 第12回「クリスマス小物作り」(高学年)
- 第13回「チャレンジスポーツ(キンボール)」
- 第14回「クリスマスカップケーキ作り(午前の部)」
- 第15回「クリスマスカップケーキ作り(午後の部)」
- 第16回「羽子板をつくろう」
- 第17回「キンボール」
- 第18回「土星ウォッチング」
- 第19回「アップルパイを焼こう」
- 第20回「伝承遊び・ニュースポーツなど」



・参加者数 児童 769 人、保護者 367 人、ボランティア 207 人(1月末集計)

「スペース～遊U～」は、旧田辺市内・旧白浜町・上富田町の小学生に教育委員会を通じて毎月 7000 部のちらしを配布して広報している。

参加には事前の電話申込みが必要であるが、内容によっては申込み開始早々で定員に達してしまうこともあり、この活動に対する関心の高さがうかがえた。

活動に際して、安全確保のために子どもはもちろん参加する大人にも名札を付けてもらっている。また、活動開始時にはグループ内で必ず自己紹介をして参加者同士の交流を深める時間を設けている。

さらに、参加している大人たちが主体的に活動できるように、ボランティアによる支援を呼びかけたところ、毎回数名のボランティアが参加するようになり、のべ参加人数は 200 名に達した。



保護者の感想 1

○子どもと保護者が一緒になって様々な体験ができるような活動を今まで経験したことがなかった。できれば、毎週土曜日の活動として位置づけてほしい。私たちもボランティアとして毎週活動できるし、もっと多くの方々と知り合いたい。

保護者の感想 2

○この活動に参加してたくさんの方と知り合いになれた。土曜の午前中は親子共々だらだらしがちであったが、生活にもめりはりができてよかった。ここで知り合った家族とホームパーティーをしたりして、親も子も喜んでいきます。



③事業3 「新庄第二小学校のスペース～遊U～」

- ・開催回数 年間10回
- ・日時 9月より隔週水曜日（午後3時より1時間半）
- ・指導体制 指導者、ボランティア、コーディネーター
- ・対象 田辺市立新庄第二小学校児童とその保護者
- ・場所 田辺市立新庄第二小学校体育館
- ・内容 ニュースポーツや工作教室など
- ・参加者数 児童約300名、保護者及び地域の方々約60名（1月末集計）

田辺市立新庄第二小学校を拠点としたこの活動の案内は、月に一回、学校を通じて配付している。指導者とボランティアは同校区内を中心に協力者を募り、活動に参加している。児童たちにとっては申し込みの必要や定員に制限がなく、授業が終わるとすぐに始まる活動なので、気軽に参加できると好評であった。



（2）成果と課題

①成果

- 土曜日や日曜日の「スペース～遊U～」への参加申込みは、常に定員を超過しており、児童や保護者の関心の高さがうかがえた。
- 子どもと指導者だけの活動ではなく、保護者を含めた活動となり、さらに、ボランティアとして参加した地域の中学生・高校生からお年寄りまで、幅広い世代が共に活動することができ、互いを知り合うことができた。
- 多くのボランティアの方々の協力を得て活動を行えたので、「よその子も我が子」という地域ぐるみの子育て意識の高揚を促すことができた。
- 学校区を越えて児童同士・保護者同士のつながりができつつある。



②今後の課題

- 当センター学びの丘は丘陵地にあり、小学生が車などで保護者と参加することが多く、保護者が一緒に活動できる内容を企画する必要がある。
- 多くの方が参加しやすい曜日と時間帯に使用室を確保するため、来年度は年度早期での企画立案が必要である。
- ボランティアとして、スペース～遊U～開設事業に関わってくれた多くの方々が、地域住民同士の交流活動を支援するリーダー的存在となるための研修を設定していく必要がある。

4 「子育てほっ！とサロン」開設事業について

【ねらい】

本事業は、保護者同士が育児の疑問や悩みを出し合い、テーマ学習を通じて育児不安を解消し、親が親となっていく学びの場になるよう、また、親が学び、育ち合う学習の場をめざしている。

また、母親が日常の親子関係から一時的に解放され、サロン終了後に新鮮な気持ちで子どもと接することができるよう、テーマ学習と併行して、一時保育ルームを2時間余り開設している。



(1) 事業内容

①募集

対象については、初めて子育てに取り組んでいる保護者とした。その理由は、幼稚園や保育所等に入っていない年齢の子ども（0～3歳）をもつ保護者を対象とすることで、共通の話題でサロンでの話し合いが活発になり、また、サロンを通じて新たなネットワークができ、仲間といっしょに楽しみながら子育てに取り組めるのではないかと考えたからである。

募集地域については、家庭教育子育て支援を推進するとはいえ、当センターでサロンを開設することになれば、参加可能な範囲は限定されてしまうが、モデル事業の性格上やむを得ないこととした。

②開設日及びサロンメニュー

参加者を募集するに当たって、開設する曜日と時間帯も大きな課題であった。子どもを連れて保護者（主に母親）が参加しやすい時間帯と曜日を考慮に入れ、前期サロンは、土曜日の午後2時から4時に開設した。後期の日程については、前期の参加者の声を参考にして、水曜日の午前9時30分～11時30分に開設することとした。

サロンのメニューは、表1のように、始めに参加者同士のおしゃべりで気持ちをほぐした後、テーマ学習をし、最後に感想を書き留めている。サロンで取り扱う資料と「心のノート」は参加者ごとにファイルに綴じて、全日程終了後に参加者に持ち帰ってもらい、子育ての参考にしてもらっている。

表 1

サロンメニュー	時間
おしゃべりタイム	15分
テーマ学習	90分
心のノートの記入	15分

③学習テーマ

本事業の中核をなす学習のテーマは、家庭教育子育て支援の立場からの基本的な考えを含めながら、参加者のニーズを優先することとした。それは、参加者からの声（聞きたいこと、学びたいこと、相談したいこと等）が急を要するケースも考えられたからである。

テーマ決定に当たっては、事前に参加の動機や取



取り扱ってほしい項目等を参加者にアンケート調査を実施し、参加者のニーズの把握に努めた。

以下は、参加者からのニーズを優先して決定した学習テーマである。

◇前期

- 第1回「読み聞かせについて」
- 第2回「子どもの事故予防について」
- 第3回「親子のコミュニケーションについて」
- 第4回「心と体を健やかに
～食べることは生きること～」
- 第5回「日常の子育てについて」



◇後期

- 第1回「読み聞かせについて」
- 第2回「日常の子育てについて」
- 第3回「親子のコミュニケーションについて」
- 第4回「歯のはなし
～お母さんのちょっとした
気遣いでむし歯はなくなります～」
- 第5回「乳幼児事故の現状とその予防」
「救命手当の実際－心肺蘇生法の実技－」



④講師

家庭教育子育て支援の推進を図るという主旨から、また、サロン以外で参加者と講師との関係が築きやすい面も考慮し、テーマ学習の講師には、できるだけ地元の方を招聘するように心がけた。表2は前・後期に招聘した講師である。

表2 子育てほっ！とサロン講師

前・後期	川口 幸三氏（和歌山県立紀南図書館長）
前・後期	山本 育代氏、志波宏子氏（同図書館ボランティア）
前・後期	嶋田左知代氏（田辺保健所主査）
前・後期	岡本 瑞子氏（子ども劇場和歌山県センター理事長）
前期	中尾 卓嗣氏（近畿農政局御坊統計・情報センター 統括情報官）
前・後期	中川多満子氏（元田辺市保健師）
後期	初山 昌平氏（和歌山県歯科医師会理事）
後期	山本 誠悟氏（田辺消防署救急救命士）

⑤参加者の反応

前・後期を通じて、参加者からの感想で多かったものとしては、たとえ2時間でも子どもと離れて、同じ年齢の子どもを持つ保護者同士でいろいろな話ができることで気分がリフレッシュできて元気が出てくることや、子育てについて同じ悩みをもっている人が他にもいることが分かってほっとしたことなどである。

家庭内では子育ては母親に任されているケースが多く、そのため、家事と育児の両面から大きなストレスを抱えながら、悩みや不安を相談する相手を見つけられず、子育てに戸惑っている母親が多いのも事実である。

(2) 成果と課題

① 成果

不安や疑問を抱えた母親がサロンに参加して、「いろいろな方からアドバイスを受け、地域の子育て情報を手に入れることで育児に対する不安が解消され、多少なりとも子育てに自信が持てて安心した」といった感想が多くの参加者から寄せられたのは幸いである。

また、当センター学びの丘でサロンを開設したことで、周辺市町村の枠を越えて参加者が集まり、互いの地域の情報交換が行われたり、同年代の子どもをもつ保護者のネットワークが広がりつつあることは意義深いことである。



② 今後の課題

参加者のニーズを学習テーマに反映させ、参加者一人ひとりが自分の気持ちをありのままに語り合える雰囲気づくりを大切にしたいサロンを展開する必要がある。

また、地域ぐるみの子育て支援を推進するため、家庭教育インストラクターを積極的に活用したり、関係機関等との連携を一層深めながら、地域の子育て情報をより多く提供できる効果的なサロンのあり方を追究していきたい。

また、前に述べた保護者同士のネットワークが、それぞれの地域での自主的な学習活動に結びつけていけるよう、今後はより具体的な支援策を講じる必要があると考える。

